

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 7 日現在

機関番号：20105

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K11989

研究課題名(和文)介護保険施設における効率性の高い褥瘡管理体制の構築と評価

研究課題名(英文) Construction and evaluation of pressure ulcer management system in long-term care facilities

研究代表者

貝谷 敏子 (KAITANI, TOSHIKO)

札幌市立大学・看護学部・准教授

研究者番号：00381327

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：介護老人福祉施設における褥瘡管理の質を評価する質問紙を作成し調査を実施した。1,400施設に郵送し239施設より回答が得られた。その結果、褥瘡マネジメント加算を行っている施設は28.9%、排泄支援加算は10.9%であった。診療報酬上の加算制度は十分に活用されていない実態が明らかになった。WOCとの連携の有無と褥瘡・スキントア発生状況の関連を検討した。連携のある施設では褥瘡保有者数は有意に少なかった。同様にスキントア保有者数も有意に少なかった(順に $p=0.05$ 、 $p<0.001$ )。介護老人福祉施設等では、地域のWOCを交えた連携を促進するシステム作りが褥瘡ケアの質を向上させる鍵となる可能性がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在介護施設で活用できる褥瘡管理体制として「褥瘡マネジメント加算」「排泄支援加算」が診療報酬としてみとめられている。しかし、施設での導入は進んでいないことが課題として明らかになった。現状の施設の体制では導入が難しいことが示唆された。一方でWOC看護師と連携がとれている施設においては、褥瘡発生・スキントア発生者が有意に少なくでは結果がよいことが明らかになった。WOCとの連携を促進する体制を整えることがケア向上につながることを示唆された。今回はプレテストの実施には至らなかったが、今後は、この結果をもとにしてWOCの連携体制、それに基づく診療報酬体制を提案する予定である。

研究成果の概要(英文)：The questionnaire was tested on 1,400 facilities using a mailing method, and 239 facilities returned the questionnaires (17.1% recoveries). As a result, 28.9% of the facilities were using incentive systems for the management of residents with PUs. Consequently, 10.9% of the facilities were using incentive systems for the continent management of residents with urinary disorders. The accrual incentive system for medical fees was not fully utilized. We examined the relationship between the presence or absence of collaboration among wound, ostomy, and continence (WOC) nurses and the occurrence of PUs and skin tears. The number of residents with PUs was significantly lower in facilities where WOC nurses were collaborating. Similarly, the number of residents with skin tears was significantly lower ( $p=0.05$  and  $p<0.001$ , in that order). In nursing homes for the elderly, creating a system promoting collaboration among local WOC nurses may be the key to improving the quality of PU care.

研究分野：高齢者看護

キーワード：褥瘡 介護老人福祉施設 スキントア

### 1. 研究開始当初の背景

本邦の人口学的特徴は、「超少子高齢・人口減少社会」と言われ人口構造の変容により、医療・介護費用が急速に増加し危機的な状況である。そのため入院期間を減らして早期の社会復帰を実現するために、受け皿となる地域の病床や在宅医療・在宅介護を充実させていく基本政策が打ち出され、医療機関の在院日数の短縮化が必須となってきた。その結果、介護療養型医療施設や介護保険施設の入所者の構成は、中重度の利用者が増加してきている(日本医療経営学会 2015)。

褥瘡においては、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)や介護老人保健施設の有病率は0.77から1.16%(日本褥瘡学会実態調査 2016)と報告されている。特別養護老人ホームに限定した調査では、有病率0~57%との報告があり(永野 2007)施設間の褥瘡対策には差があることが指摘されている。介護施設においては、医療施設と同様に「褥瘡マネジメント加算」などの体制が整えられているが、介護・看護職の予防知識不足(寺境 2009)や予防具の不足(濱崎, 2014)施設内でのケア指針の整備が十分でない(永野 2006)ことが報告されていて、現状ではこの「褥瘡マネジメント加算」では十分な効果が得られていないと推察される。そのため介護保険施設において褥瘡の管理を効率的に実施できる体制を整えることは重要な課題である。

現状の褥瘡対策をドナベディアンモデルに合わせて検討した。現状の褥瘡対策では、褥瘡マネジメント加算や排泄支援加算が構造にあたると考えられる。褥瘡管理に関する質を評価する上では、過程を合わせて評価することが重要であり、サービスがどのように提供されたかを知る必要がある。

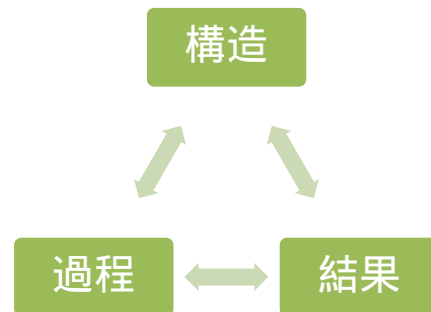


図1 医療の質評価  
ドナベディアンモデル

### 2. 研究の目的

本研究では、介護老人福祉施設の褥瘡体制と予防的スキンケア管理の実態(過程)を調査することを目的とする。そして、結果に影響する過程との関連を検証し、効果的な褥瘡予防体制を確立する際の示唆を得ることを目標とする。

### 3. 研究の方法

研究期間全体のスケジュールを図2に示す。質問紙による横断調査の対象は、全国老人福祉施設協議会会員である特別養護老人ホーム4,374件より無作為に1,400施設抽出し配布した。ケアの質を含めた調査項目は施設の基本情報、回答者情報、施設入所者の褥瘡リスク、褥瘡管理体制、調査時点での褥瘡保有者人数、項目は、褥瘡ケアの質評価(特定機能病院における褥瘡予防対策の質指標(小柳 2009)を参考にし

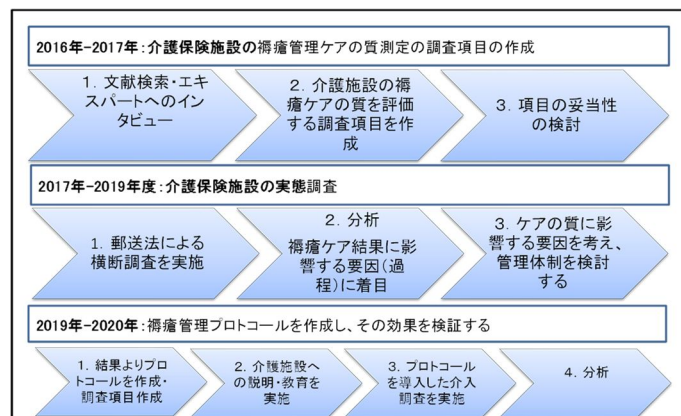


図2 調査全体図

て施設のケアの質を図る評価指票を作成した。質問紙の実施は、2019年2月~3月末であった。褥瘡対策の質評価を検討するために、各施設、要介護度の分布状況、各介護報酬の管理加算状況、褥瘡深達度別の褥瘡保有患者の有無の褥瘡対策の質との関連を、Wilcoxon 順

位和検定、Fisher's exact testなどで関連検証を実施した。

#### 4. 研究成果

褥瘡の結果に影響すると考えられた「過程」評価を含めた質問紙を作成し調査を実施した。1,400施設に郵送し回収は239施設より回答があった（回収率は17.1%）。施設開設主体は社会福祉法人が95%（227）であった。調査施設中の入居者は要介護3以上の中重度の方が64.0%を占めていた。施設での褥瘡保有者は平均5.4±7.5人/年で、調査時点でのスキンテア保有者は平均11.2±20.5人と施設間で差がみられた。皮膚・排泄ケア認定看護師（WOC）に相談できる環境にある施設は8.4%であった。褥瘡マネジメント加算を行っている施設は56施設の28.9%、排泄支援加算は22施設の10.9%であった。各算定人数は、平均56.9±36.8人、17.0±26.0人であった。褥瘡対策に関連する診療報酬加算制度は各施設で導入が難しいものであることが示唆された。

褥瘡マネジメント加算導入の有無と褥瘡発生、スキンテアの発生状況の関連を検討した結果（表1）加算導入の施設では褥瘡ステージの発生者が多かった（ $p=0.03$ ）。重症な褥瘡を経験することが褥瘡対策へのきっかけになっていることも予測されるが、データだけでは関連性については不明である。

WOCとの連携の有無と褥瘡発生、スキンテア発生状況の関連を検討した。

相談できるWOC看護師がいると回答した施設では年間褥瘡保有者数は有意に少なかった。同様に調査日のスキンテア保有者数も有意に少なかった（順に $p=0.05$ 、 $p<0.001$ ）。介護老人福祉施設等では、地域のWOCを交えた連携を促進するシステム作りが褥瘡ケアの質を向上させる鍵となる可能性がある

まとめ：介護老人福祉施設における褥瘡管理のプロセスを評価する質問紙を作成し、調査を行った。褥瘡体制として、現在利用できる診療報酬上の加算制度は十分に活用されていない実態が明らかになった。活用に至っていない原因の詳細に

ついてはさらなる調査が必要である。褥瘡ケアの体制としては、WOC看護師と連携している施設の褥瘡発生者数が少なかったことから、WOCとの連携を促進する体制を整えることがケア向上につながることを示唆された。今回はプレテストの実施には至らなかったが、今後は、この結果をもとにしてWOCの連携体制、それに基づく診療報酬を提案する体制を構築して、その実施率を含めたプロセスへの影響と結果を検証する予定である。

表1 褥瘡マネジメント加算有無による褥瘡・スキンテアの発生者数

	施設 n	褥瘡マネジメント加算	褥瘡発生		p 値
			平均 (人)	標準偏差	
褥瘡保有者/年間	209	有	5.8	8.2	0.63
		無	5.3	7.4	
1度	217	有	1.9	3.7	0.78
		無	2.1	3.1	
2度	218	有	1.3	1.9	0.95
		無	1.3	1.7	
3度	217	有	1.0	1.8	0.03
		無	0.6	1.0	
4度	217	有	0.5	1.1	0.27
		無	0.3	0.7	
スキンテア有	203	有	13.4	26.1	0.43
		無	10.5	18.1	

表2 WOCの連携の有無と褥瘡・スキンテア発生者数

	施設 n	WOCとの連携の有無	PU発生		p 値
			平均 (人)	標準偏差	
褥瘡保有	220	有	4.0	2.5	0.05
		無	5.5	7.8	
1度	223	有	1.8	2.8	0.78
		無	2.1	3.3	
2度	224	有	1.5	2.1	0.55
		無	1.2	1.7	
3度	220	有	0.9	1.3	0.49
		無	0.7	1.3	
4度	223	有	0.4	0.7	0.84
		無	0.4	0.8	
スキンテア有	208	有	4.9	4.5	<0.001
		無	11.9	21.4	

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 貝谷敏子
2. 発表標題 介護老人福祉施設における褥瘡管理の実態
3. 学会等名 第29回日本創傷・オストミー・失禁管理学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石澤 美保子  (Ishizawa Mihoko)  (10458078)	奈良県立医科大学・医学部・教授    (24601)	
研究分担者	福田 敬  (Fukuda Takashi)  (40272421)	国立保健医療科学院・その他部局等・部長    (82602)	
研究分担者	中村 恵子  (Nakamura Keiko)  (70255412)	札幌市立大学・看護学部・特任教授    (20105)	